

## 総合心療センター デイケアメンタル

室長 川渕 忠義

---

### はじめに

令和 7 年（2025 年）は、精神科医療を取り巻く環境の変化に対応しつつ、高知県の現状を踏まえ、精神科デイケアに求められている役割と当院の役割とは何かを模索した一年であった。この一年、良質な医療を提供することにより利用者数の増加を目標に取り組んでいたが、9 月に近森病院全体の事業の見直しをおこない、精神科の未来と当院の現状、今後の方向性を検討した結果、令和 8 年（2026 年）1 月末をもってデイケアメンタルを閉所することを決断した。

### 運営状況

デイケアメンタルの運営体制は、スタッフ構成は昨年と変更はなく、作業療法士をチームリーダーに公認心理師 1 名（心理室兼務）、看護師 1 名の計 3 名のベテランスタッフで構成されている。週 1.5 日作業療法室所属の作業療法士によるサポート体制も継続し運営をおこなった。

### 実績

活動実績としては、年間利用者数（グラフ 1）はここ数年、減少傾向は続いている。登録者数も伸び悩んでいる。年間入退所者数（グラフ 2）については入所 21 名、退所 25 名と退所者数が入所者数を上回っている状況が続いており、運営状況は厳しいことには変わりない。利用者層の拡大に向け、個々のスタッフは努力を惜しまず実践をおこなったが、一日平均利用者数は減少の一端をたどっている。9 月以降は閉所に伴い入所を制限したことによる利用者数は減少している。当施設の運営方針に基づき、適切な医療を提供することを使命に短期集中型のリハビリテーションの定着を意識し努力を続けた結果、登録者数自体の増加はないが、治療やリハビリテーションを意識した効率的な運営が実現できている。個別のケースについては、就労目的の利用者は微増しており、平均年齢も 40 代半ばである。一方で高齢の利用者については、サービス移行を着実に進めており適切なタイミングでの地域移行や精神科デイケアにとどまらない支援を意識した運営をおこなった。

入所者の紹介元については、当院外来からの紹介が多く、利用目的は地域生活の安定や就労を目的としたケースであった。ついで入院、他院・クリニックの順になっている。当院入院については、病状悪化による入退院を繰り返しているケースが多く、新規のケースについては少数であった。他院・クリニックについては大きな変化はみられない。疾患別内訳においては、例年と大きな変化はなく、統合失調症が約半数を占め、次いで発達障害、その他となっている。疾患にかかわらず、就労を目指すケースを中心に心理社会的リハビリテーションを軸とした運営方針に変わりはなく、アセスメント力の強化、他機関との連携、就労支援、適切なタイミングでの地域移行を軸に実践した。

### おわりに

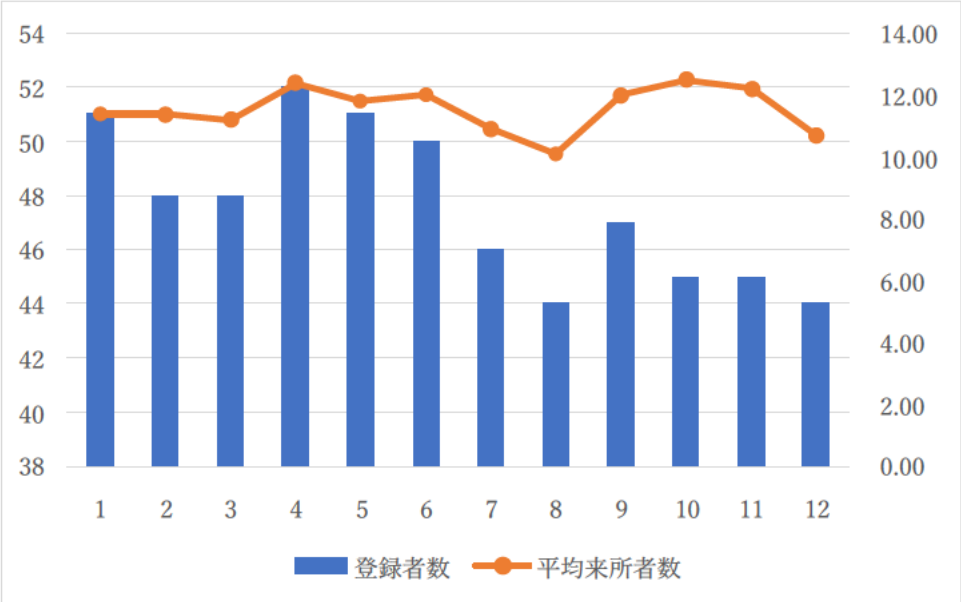
2026 年 1 月末にて閉所するにあたり、利用者が安心して次のステップや他施設への移行ができるよう、職員一同、最後まで丁寧な支援を努めてまいります。

最後に、デイケア職員を代表し、これまで当施設を支えてくださった皆さまへ、感謝の言葉を述べたいと思います。

開所以来、長きにわたり利用者、利用者家族、そして地域の方から温かいご理解とご協力を賜り、私たちは日々の支援に全力で取り組むことができました。皆さまと過ごした時間は、私たち職員にとって、かけがえのない経験であり、その一つひとつが、今も深く心に刻まれております。このたびの閉所は大変心苦しい決断ではありますが、これまでいただいたご縁と経験を胸に、職員一同、これからもそれぞれの場でより良い支援に努めてまいります。長い間、本当にありがと

うございました。

(グラフ 1)



(グラフ 2)

